札幌市創成川通

（北海道札幌市）

札幌市創成川通（北海道札幌市）

道路の地下化・上部空間整備により、地域の交流が活性化

道路特性：都市内幹線

事業特性：道路線形・構造改良、道路空間再編、歩行空間整備、道路修景

◆事業の内容

○札幌都心部の交通混雑の緩和や都心空間の有効利用を図る、アンダーパスの連続化

○地上部の緑地整備、護岸整備、歩道拡幅、無電柱化等

事業の成功要因（実践のポイント）

○整備地区周辺に限らない全市的な対話活動

・市民が議論できる「場」を提供し、地域団体との意見調整を図った。

・沿道地域のみならず、市内全域の住民を交えた意見交換を実施。

○計画から施工まで一貫したデザイン監理を実施

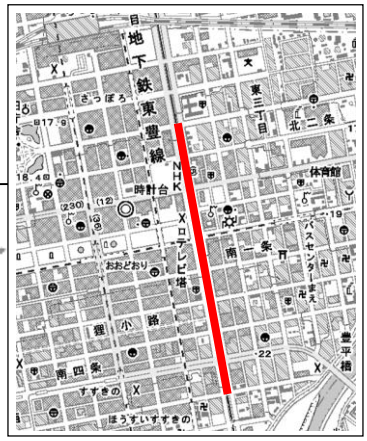
・計画から設計段階、施工段階におけるデザイン監理までを一貫して行える体制を構築し、デザインの一貫性を担保。

◆事業の成果

○道路の地下化（トンネル化）によるアンダーパスの連続化により、通過交通の速達性の向上、自動車交通事故の減少

○地上部の空間整備に伴う地域分断の解消により、地域間の歩行者交通量が約 17%増加

◆事業箇所



◆事業データ

・事業主体：札幌市

・路線名称：札幌市創成川通

・道路延長：1,100m

・道路幅員：56.82m
地上 4 車線
地下 4 車線

・事業期間：平成 14 年度～平成 22 年度

札幌市創成川通（北海道札幌市）

◆事業概要

・創成川は慶応 2 年に開削された札幌市の中心部を流れる河川である。昭和 47 年に開催された札幌オリンピックを契機に、両岸が 2 ヶ所のアンダーパスを含む片側 4 車線の道路が整備された。
・創成川のアメニティの回復を訴える市民団体が平成 3 年に発足し、2 つのアンダーパスを連続化し、その地上部を緑化するという提案がなされた。
・この提案を踏まえ、平成 10 年に札幌市は都市計画決定し、平成 16 年から「創成川通アンダーパス事業」を実施。川の両岸（東西）を繋ぎ、水と緑に親しめる交流・憩いの場が整備され、平成 23 年 4 月に創成川公園がオープン。

整備状況

◆整備概要

〇8 車線道路のうち 4 車線を地下化し、アンダーパスを連続化
〇地下化した道路の上部空間に親水緑地空間を整備
〇地域の活動や交流を図る広場空間（狸二条広場）を整備
〇道路上部空間の賑わい創出のためのアートワークの設置

道路の地下化

親水緑地空間

狸二条広場でのイベントの様子

アートワーク

札幌市創成川通（北海道札幌市）

実践上のポイント（構想・計画段階）

～整備地区周辺に限らない全市的な対話活動～

【市民ワークショップの開催】

・札幌市では、平成 11 年に「第四次札幌市長期総合計画」を策定し、その中で創成川通の整備を位置づけ。
・平成 12 年には市民アンケートを実施し、平成 13 年には「創成川通交通対策勉強会」をスタートさせ、市民ワークショップを開催した。

【事業供用までの主な検討経緯】
・H11　「第 4 次札幌市長期総合計画」に創成川通整備が位置づけ
・H12　市民アンケート調査を実施
・H13　「創成川通交通対策勉強会」開催
　市民ワークショップの開催
　（～H18 年度）
・H14　「市民懇談会」開催
　パネル展開催
・H15　市民団体から、相反する内容の要望書が提出される
　「1000 人ワークショップ」開催
・H16　都市計画事業認可
　「緑を感じる都心の町並み形成計画」策定
・H21.3 トンネル供用
・H23.3 公園供用

【市民懇談会】

・平成 14 年に市民団体から、創成川整備に関する意見が出されたことから、周辺住民、沿線商店街関係者、市民団体、学識者等と札幌市で、本事業の地上部整備のあり方等についての合意形成の場として、「市民懇談会」を開催。

【市民 1000 人ワークショップ】

・沿線住民等のみならず、広く市民との意見交換を行う機会を設けることを目的として、平成 15 年に「1000 人ワークショップ」を開催した。
・市民懇談会、1000 人ワークショップでの議論を通じて、札幌市の案（現案）を了承し、平成 16 年に都市計画事業認可。

1000 人ワークショップの様子

道路デザイン指針（案）との関係：（実践編）６－２（２）地域住民との関わり
６－３　関係者との協力体制の構築と支援
７－１－２　検討体制の整備

実践上のポイント（計画・設計段階）

～分野横断的なデザイン検討体制の構築～

・平成 17 年より、具体的なデザイン検討を進めるための「創成川通デザイン検討委員会」を設立。
・市の担当部局を中心に、委員を人選。
・篠原修東京大学名誉教授を委員長に据え、その他学識・有識者の２名を選定。
・創成川通の具体的なデザイン計画の立案や施工段階における現場監修等を実施。

◆デザイン検討委員会の概要
開催期間：H17～22

委員：篠原先生（委員長）、小林英嗣氏、笠康三郎氏

目的：市の上位計画（緑を感じる都心の街並み形成計画）に基づき、具体的なデザイン計画の立案や施工段階における現場監修等を実施

■異なる分野の専門家によるデザインチームの形成

・詳細なデザイン検討を行うためのデザインチームを、ランドスケープ、建築、照明、都市計画等の分野の専門家が集まり１つのチームを形成。
・各分野の壁を越えて、空間の一体的な整備を実現すべく検討を実施。
・デザインの一貫性を保つことが可能な組織づくりが必要という検討委員会の意向を踏まえ、設計段階～施工段階において、デザインチームが継続的に関与。

創成川通整備におけるデザイン検討体制

札幌市創成川通（北海道札幌市）

実践上のポイント（施工段階）

～デザインチームによる一貫したデザイン監理～

・デザインの一貫性や質の確保を図るため、上部空間等の施工にあたっては、デザインチームによるデザイン監理を実施。
・整備にあたっては、実物大模型による試験施工を実施し、委員会およびデザインチームによる現地確認を実施。
・舗装材等の選定にあたっては、札幌駅前通りとの一体性を考慮し、素材の選定、整備パターンを検討。

護岸の試験施工の様子

滞留空間の舗装イメージ（北海道レンガ）

実践上のポイント（管理段階）

～官民連携による運営組織の立ち上げ～

・地域分断の解消や、地域住民の交流空間として設置された狸二条広場活用の窓口組織として、札幌市や地元商店街等の官民連携による「狸二条広場運営協議会」を設立。
・当該協議会は、狸二条広場でのイベント時の市への事前相談や広場の使用に関する公園の占用等の手続き、地元への周知等を実施。
・当該協議会自身もイベントの実施主体となり、夏期のビアガーデンや秋祭りでの広場活用など、地域の賑わい創出に向けた様々な取り組みを実施。
・当該協議会と札幌市は連携して情報共有を図り、イベント実施希望者との各種調整や周辺への情報提供を行っている。

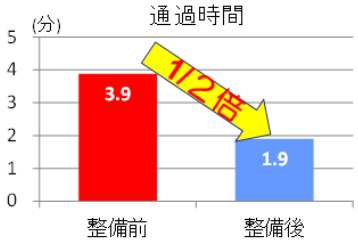
狸二条広場におけるイベント開催状況

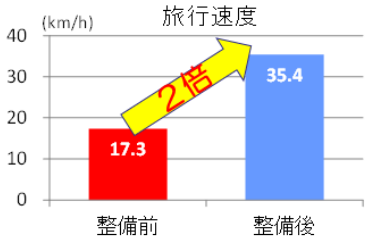
道路デザイン指針（案）との関係：（実践編）５－１４（１）デザインの一貫性の確保
６－２（２）地域住民との関わり
６－３　関係者との協力体制の構築と支援

整備効果

～通過交通の速達性の向上、交差点部の混雑の緩和～

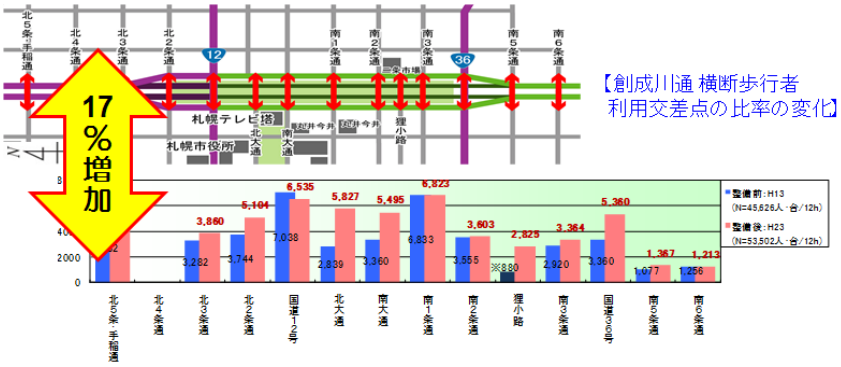
・2 箇所のアンダーパスの連続化整備により、都心部通過交通の速達性の向上（当該区間の通過時間が約 1/2 に減少）。
・通過交通とアクセス交通の分離により、地上部の交差点部の混雑緩和。
・トンネル化による騒音等の影響の低減等、周辺環境の改善。





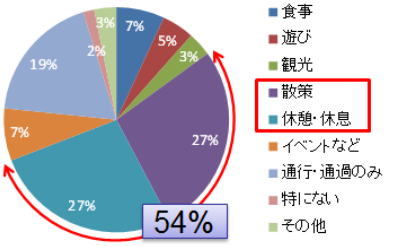
～東西市街地の交流の活性化、連携強化～

・創成川通上部空間の安全性の向上、近づきやすい魅力ある空間の整備により、創成川通の各交差点における歩行者交通量が約 17%増加。

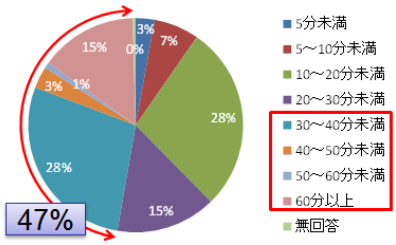


～憩いの場、賑わいの場としての機能向上～

・道路上部の緑地空間の整備により、散策や休憩・休息を目的とした新たな人の流れが発生し、滞在時間が増加するなど、市民の憩いの場として機能が向上。
・狸二条広場では、年間約 30 件のイベントが開催されており、札幌都心部の賑わいの創出に寄与している。



来訪の目的



滞在時間

創成川公園におけるイベント開催状況

札幌市創成川通（北海道札幌市）

具体の整備内容

【デザインコンセプト】

・札幌の歴史を「つなぐ」

・市街地を「つなぐ」

・軸として「つなぐ」

■軸として「つなぐ」

直線河川の空間的特長と水とみどりの要素を活かし、緑の軸、歩行者の軸を作る

■市街地を「つなぐ」

創成川を挟んだ東西の市街地を結びつける場としての役割を持たせる

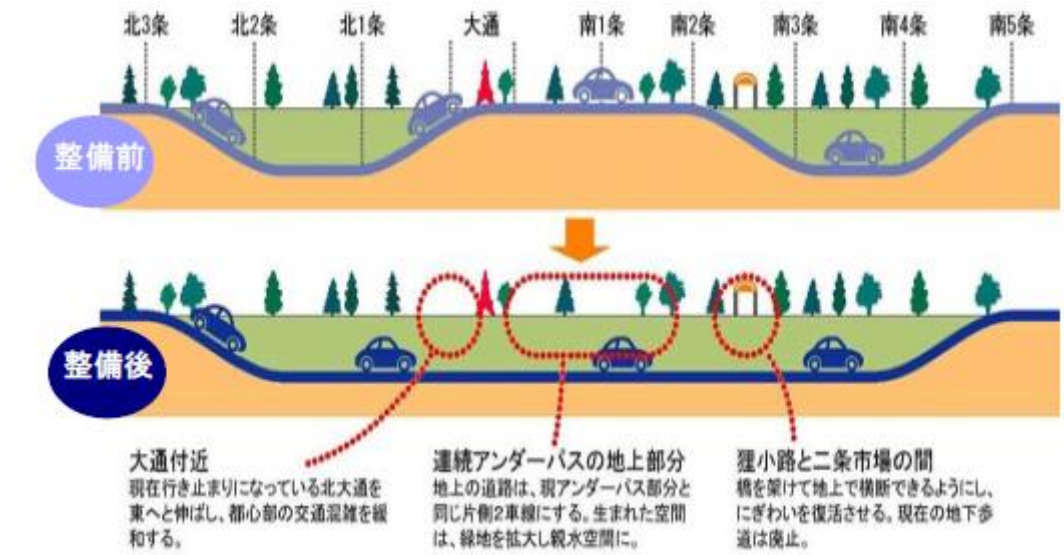
■札幌の歴史を「つなぐ」

札幌の発展を支えるとともに、市民生活の場として利用されてきた創成川の姿を残す

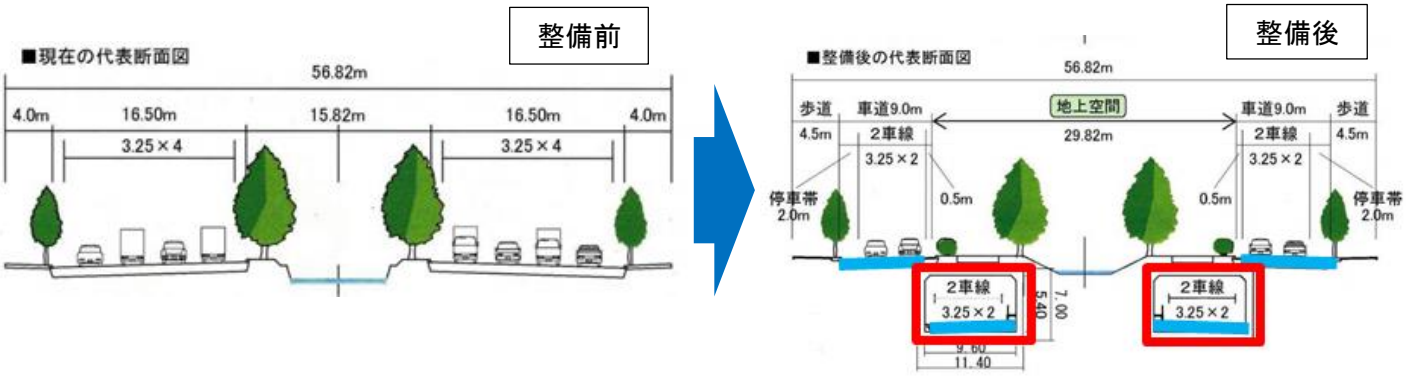
整備イメージパース

【道路構造の改良】

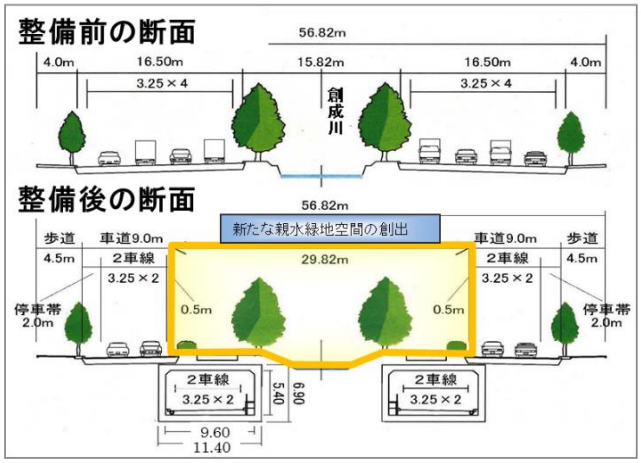
・地上道路 8 車線のうち 4 車線を地下化。
・既存の 2 つのアンダーパスを連続化。
・車線の地下化により創出された地上空間に、新たな親水緑地空間を整備。



アンダーパス連続化イメージ



整備断面イメージ（車道の地下化）



整備断面イメージ（緑地親水空間）

緑地親水空間の整備状況

札幌市創成川通（北海道札幌市）

【狸二条広場】

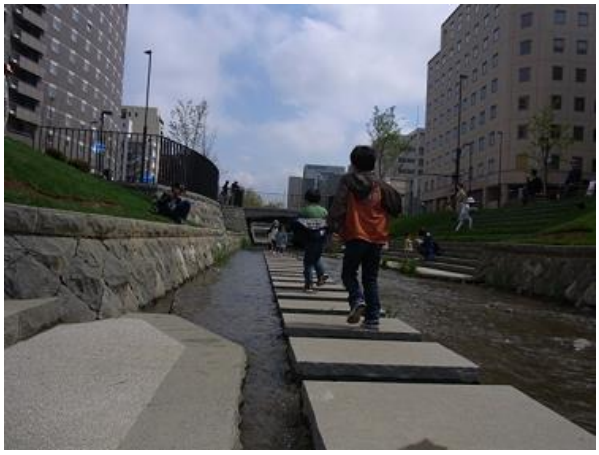
・創成川通の整備にあたっては、通りを挟む市内東西地区の地域分断の解消が課題であった。
・そのため、両地区の地域分断の解消と共に、地域住民の交流促進を図るイベントスペースの創出を目的として、札幌市の観光資源でもある狸小路と二条市場をつなぐ道路上部空間に「狸二条広場」を設置。

狸二条広場全景

狸二条広場におけるイベント開催状況

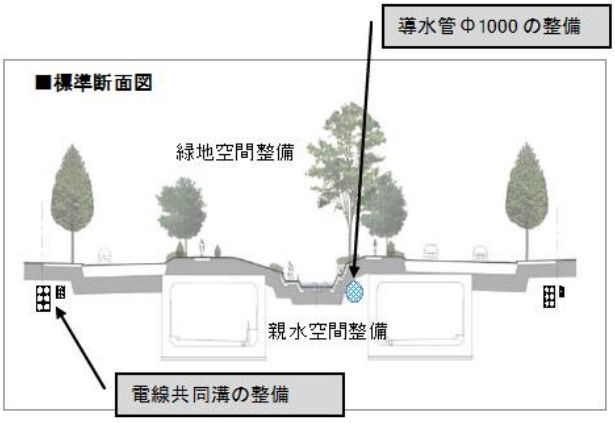
【親水緑地空間】

・創成川の改修にあたっては、親水性の高い快適な水辺空間の創出が求められた。
・そのため、高低差の大きい区間では、川の流れを感じながら散策ができるよう、二段護岸による整備とし、水辺へのアプローチ階段、飛び石等を設置した。
・さらに、親水性の向上として、河川の水深を浅くし、流速を抑制するための導水管を設置。（水深 20cm 以下、流速 0.5m/s 以下）



親水緑地空間

二段護岸による整備



導水管の整備

【アートワーク】

・緑地親水空間の魅力の向上と散策の促進を目的に、緑地空間にアートワークを設置。
・3 人の芸術家による彫刻作品や芸術作品、全 18 作品を設置している。
・デザイン検討委員会における「実際に使ったり触れたりできるようなものが望ましい」との指摘を踏まえ、作品を設置。
・各作品は、公園全体を歩きながら、物語が感じられる配置となっている。

スノーリング（作：西野 康造氏）

「2nd MOIWA」（作：団塚 栄喜氏）

「天秘」（作：安田 侃氏）

札幌市創成川通（北海道札幌市）

事業関係者のコメント

【行政関係者】

＜計画段階＞

・1000 人ワークショップの開催にあたっては、規模が大きいため、多種多様な意見が出てきたが、最終的には多数の意見を尊重することで、合意形成を図ることとした。
・デザインの一貫性を確保するための体制整備の観点から、専門家からなるデザインチームを形成することとした。
・創成橋の復元は技術的な検討要素が大きく、創成橋保存技術検討委員会で検討が行われたが、デザインの調和が保てるよう、デザイン検討委員会と創成橋保存技術検討委員会との意見調整を市が行っている。

＜施工段階＞

・護岸整備にあたっては、実物大の模型を使って、委員会の委員に確認をしてもらいながら進めた。
・デザインの一貫性や質の確保を図るため、上部空間の施工にあたっては、デザインチームによるデザイン監理を実施している。
・導水管を設置し、創成川に流れる水の水量を調整している。人が近づける空間とするため、河川流量を少なく調整している。

＜管理段階＞

・道路と公園の兼用工作物として整備。道路管理者と公園管理者の間で兼用工作物管理協定を結び、公園管理者と河川管理者の間では維持管理協定を結んでいる。
・大通り公園が前例としてあったので、道路と公園の兼用となる場合の管理については、問題なく協議が進んだ。

＜成果と課題＞

・創成川を挟んだ市域東西の往来が容易になり、域間の歩行者交通量が約 1.2 倍に増加するなど、東西の交流が増進、活性した。
・整備による地域活動を誘発する効果は大きいと考えている。整備後、年間約 30 件のイベントが開催されている。

＜事業のポイント＞

・最初から市民を巻き込んで議論していったので、市民も愛着を持っていると思われる。
・当該地域は都心部に位置し、特定の地域住民のみならず市民全体に関わる事案として、市民全体から意見を聴くようにした。